

写真で見る浪曲人生

春日井梅鶯

第二回

「芸の上達には、まず素直な人間であることです」

文・おさだ衛



かすがい・ばいおう 本名・安藤和子。昭和2年9月2日うまれ。父・初代春日井梅鶯の浪曲に感動し、父に入門。昭和26年、春日井加寿子（かずこ）としてデビュー。昭和50年、二代目梅鶯を襲名。現在、日本浪曲協会の副会長。写真は昭和28年、千葉県市原市鶴舞の自宅のとうもろこし畑にて。左から初代・梅鶯、夫人のゆききさん、26歳、はつらつとした春日井加寿子（現・梅鶯）。撮影、津久井昭。

10年前と比べて驚くほど新人が多くなった浪曲界。ぜひこの人たちに次の時代をとらえるのが、芸が上達するには一定の時間がかかるのは必定。あせらず、くさらず、前向きに温かい目と芸人ばかりかお客さんまでが考える昨今。そこで今回は浪曲協会副会長である梅鶯師に弟子の育て方について聞いてみた。

「芸でも仕事でも素直が一番なんです。自分を無にして師匠や先輩の教えを吸収することです」

梅鶯師は先代・梅鶯と13年間、二枚看板で全国を巡業した。

「父の教えは礼儀作法はしっかりと身につけること。先輩には礼儀を尽くし口答えをしないが鉄則でした。私も納得し、弟子や後輩にそう伝えます」

梅鶯師の弟子では今、春日井梅香

（ばいか）がいる。

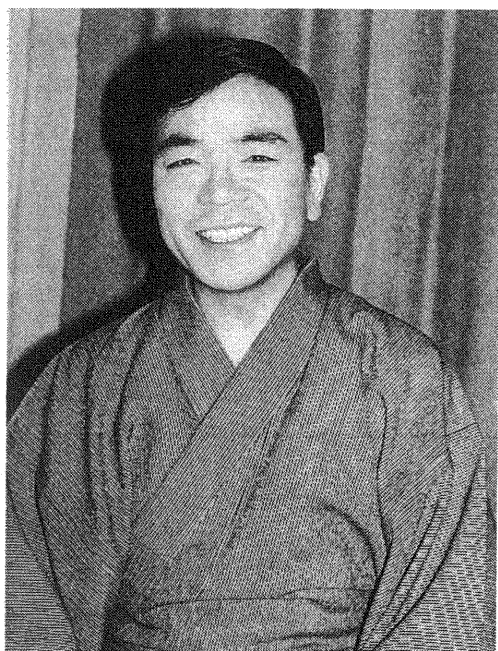
「梅香は先代の浪曲に魅了されて私の門下に入りました。梅香にも芸の上達には素直さですよと、口をすっぱくしていいました。まともな人間になる修行が大事なんです。芸はそれからです」

梅鶯師は梅香に「良弁杉（ろうべんすぎ）」の演題を与え徹底的にマスターさせた。

「梅香は年齢も年齢ですので読み物の数は少なくとも、生涯にわたっての財産になるものを考えたのです」

梅香は素直に師のいいつけを守り「良弁杉」だけを懸命に勉強した。一席をものにするには嘶百べんということばもあるが、アマチュアでキャリアを積んでいた梅香もプロの厳しさを感じたことだろう。

とにかく梅鶯師の指導は厳しい。ス



春日井梅香（ばいか）。昭和21年、栃木県足利市出身。幼少からの浪曲ずき。いわゆる天狗連で浪曲の勉強をしていた。昭和51年、現・梅鶯に入門。のち玉川勝太郎のもとで三年、修行した。54年から再び梅鶯の許で修行。浪曲界を支える中堅どころだ。得意ネタは『良弁杉』『隅田川誉れの水馬』『名人竿忠』ほか。

パルタ教育だ。梅香の年々明けは入門して8年目のことだった。

「三、四年、修行すれば年々明けという慣例よりも梅香の芸はまだだと判断したのです」

ある時、梅香が風邪を理由に木馬亭の定席を休みたいと言った。梅鶯師は「私は40度以上の熱を出しても高座を勤めましたよ。風邪ぐらいではダメと、舞台上がらせました」

梅香は舞台なかばで倒れた。「ああ、戦後うまれの子供は私たちと鍛えがちがう。昔の教え方は通用しないと痛感しました」

最近、春日井梅光(ばいこう)の弟子の春日井あかりに稽古をつけている。春日井あかりの年々明けの会で披露した『悲恋与茂七』は好評だった(本誌3ページ参照)。この演目はもちろん梅鶯師の持ちネタ。登場人物が武士、町人、



昭和60年、梅鶯の後援会で挨拶する梅香。「梅鶯先生には若ことよりも行儀や言葉づかいを厳しく言われました。ひとり立ちして、お客さんや業界の関係者との付き合いの中で、先生から教わった礼儀作法や行儀がどれだけ役立って救われたことか。先生に感謝しきれません」

年輩者、若者、娘といった具合に別れ、芸の基礎を覚えるのには好都合だ。それだけにあかりに一節一節を丁寧に解説し、悲しい歌詞の節は陽でセリフが陽なら節は陰でと教え、声を張るようにと具体的に叩き込んだ。

「あかりは、まだ海のものとも山のものともつきませんが素直で覚えは早いですね。教えかた次第で声は出ます。浪曲は自分の声を作ることが先決です。早く自分のキーを見つけることです」

梅鶯師は先代から声の出し方、息の継ぎ方、呼吸を教えられたのだが、



昭和38年、アメリカ巡業時のプロマイド。巡業先でこの写真をお客さんに配った。前列、左は名曲師の松下信太郎、右はマネージャーの壽々木米若の娘の寿美子。

「父と私は声量も息の長さも違うのに、あくまでも俺の言うとおりにやれとの厳命でした。それは無茶なんですよ」

たぐいまれなる声量と美声で一時代を築いた先代はひとりひとりの息が違おうということも考えてもくれなかった。そこで梅鶯師は独力で自分の声を作ってきた。梅鶯師の『天野屋』には先代同様の品格が漂うが、そればかりか情景が実に克明に浮かぶ節と啖呵の運びがある。梅香やあかりにもそんな当代梅鶯の芸を継承してもらいたい。

(以下、次号)



昭和50年、京山幸枝若と。「幸枝若師は先代を尊敬していて、私をお嬢さん、お嬢さんと、なにかと可愛がってくれました。近代的でリズムカルでアドリブがうまく、声も良くて素晴らしい芸でした。あんなに早く逝くなんて本当に残念です」

浪曲...

47
52

これほどすばらしい芸は他にはないと思います。

浪曲家の皆さん...頑張ってください。
多くのファンを楽しませて下さい。

新小岩 坂本病院 院長 坂本 豊 吉